

## 米国核燃料作業部会報告書

「米国の原子力エネルギーの競争優位性の回復に向けて—米国の国家安全保障戦略」  
(2020年4月23日公表)

### 報告書について：

- 米国エネルギー省（DOE）のD.ブルーエット長官は2020年4月23日、核燃料作業部会（NFWG）が米国の原子力産業復活をめざしてとりまとめた包括的な戦略報告書「米国の原子力エネルギーの競争優位性の回復に向けて—米国の国家安全保障戦略」を公表した。
- 米国のウラン採鉱企業2社（エナジー・フュエル、Ur-エナジー）が2018年1月、1962年通商拡大法232条に基づき、国産ウランの使用拡大を求める請願を行い、商務省が翌2019年4月14日、ウラン輸入が安全保障上の脅威とする内容の調査報告書を取りまとめた。この調査報告書を受けて、トランプ大統領は同年7月12日、覚書で、国産ウランの一定割合の購入を義務付ける制度の導入を否定する一方で、広い視点から核燃料サプライチェーンを含む米国の原子力産業の復活について検討する核燃料作業部会（NFWG）の設置を決定した。
- NFWGの報告書は、米国の原子力産業復活に向け、米国の核不拡散目標との整合性及び国家安全保障を確保しつつ、原子力発電のポジティブな特性を高め、ウラン採鉱、精錬、転換産業の能力を復活させるほか、米国の技術優位性を強化し、米国の原子力輸出を促進するために、政府、議会、規制機関が取るべきアクションを政策勧告として取りまとめている。

報告書が勧告した米国の原子力リーダーシップ回復戦略の要点は、以下のとおり。

- ウラン採鉱・転換産業を強化し、核燃料サイクルのフロントエンド全体の存続性を回復するために、迅速かつ大胆なアクションの実行
- 技術進歩を確実にし、次世代原子力技術における米国のリーダーシップを強化するために、米国の技術イノベーションと先進原子力研究開発実証（RD&D）投資を活用
- ウラン採鉱企業や核燃料サイクル事業者、原子炉ベンダーがそれぞれの製品やサービスを販売できる健全かつ成長する原子力エネルギー部門の確立
- 海外の国有企業との競争下で、民生用原子力輸出において米国の原子力産業を支援する政府一丸となったアプローチの実施

## <報告書（全 32 頁）の目次>

- エグゼクティブサマリー
- 現状
- 戦略アプローチ
- 国家安全保障上の利益
- 戦略開発
- 戦略方法論
- 戦略目標
- 米国のウラン産業の支援と核燃料サイクルのフロントエンド全体の能力回復に向けた迅速なアクション
- 核燃料サイクルのフロントエンドと国内原子力産業の復活と強化
- 技術と標準で世界を主導
- 米国の輸出競争力の強化
- 対策（政策勧告）の要点

ここでは、上記報告書の目次のうち、**エグゼクティブサマリー**、**現状**、具体的取り組みの例として挙げられている 2 章（「**技術と標準で世界を主導**」および「**米国の輸出競争力の強化**」）、そして**最後の対策（勧告部分）の要点**の仮訳を紹介する。

米国の原子力エネルギーの競争優位性の回復に向けて

米国の国家安全保障戦略

エグゼクティブサマリー

全編はこちらから

[https://www.jaif.or.jp/members/us\\_nfwg\\_report](https://www.jaif.or.jp/members/us_nfwg_report)

※会員限定で公開しております